現代における社会的事象を題材とした歴史的思考力の育成
－歴史的事象の構造化の手法を通して－

長期研究員　佐久間　宏 孝

《研究の要旨》

私自身が経験してきた歴史の授業は，教師の講義による知識詰込み型のものが多かった。基礎的・基本的知識・技能の習得は学習において重要な点ではあるが，現状は偏向が見られる。本研究では生徒の思考力・判断力・表現力の育成ができるような授業の構築のため，歴史的思考力に着目した。具体的には現代の社会的事象を題材にその要因を歴史的事象と関連付けて探る課題設定を行い，生徒が課題に取り組んでいくことで思考を深化させる。その過程で事象の事実認識から関係認識へ生徒の意識を転換させるような授業を試みた。

Ⅰ　研究の趣旨

私の経験してきた歴史科目の授業手法は，講義形式が主であり，また生徒に思考させたり，生徒の活動を求めたりすることより，教師の講義による生徒への知識詰込みに力点が置かれていた。その結果，生徒には歴史科目は暗記科目である，そして習得した内容は基本的に過去の事例であり，現代に生きる生徒自身には関わりのないものであるという主観を育むことにつながってしまっている。

この傾向は，いわゆる「歴史嫌い」の生徒を生み出してしまうばかりでなく，歴史を学習する上でも暗記中心の学習が生徒に根付いてしまうのではないかと危惧される。既に現場では，授業で指導された歴史用語をその関連性や歴史的事実の流れに気付かず，手当たり次第に暗記すればよいという傾向を生んでしまっている。生徒の歴史科目に取り組もうという意欲は低下し，歴史科目が苦手だった生徒ほどさらに授業に能動的に取り組まなくなり，かつてより低い考査結果を得るという状況が生まれてしまっている。教師として，こうした歴史の授業の在り方を改善し，「歴史的思考力」「構造化」「多面的・多角的視点」をキーワードに従来の手法とは違った形の授業の在り方を研究したい。

本研究をきっかけとして，生徒が歴史の流れや事象の因果関係を理解しないまま歴史嫌いに陥ることを避け，授業を受ける際に歴史についての思考を能動的に行い，前向きに歴史に取り組んでくれるような生徒を育成したい。そのための一つの方途を提案することができればとの思いから本研究主題を設定した。

Ⅱ　研究の概要

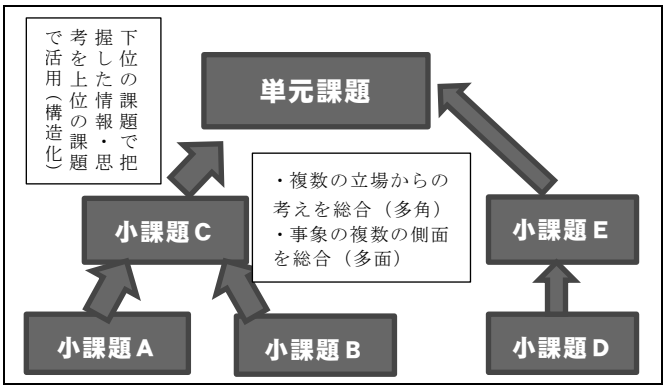
１　研究仮説

現代における社会的事象を題材とし，歴史的事象の構造化を図る取組を行えば，歴史的思考力を育むことができるであろう。ここでいう歴史的思考力とは，いくつかの文献を参考に，以下の３点と定義した。「歴史資料を読み取り，読み取り内容を引き出す力」「歴史的事象の因果関係を把握し，歴史の文脈（流れ）をつかむ力」「歴史的事象を現在の自己を取り巻く社会的事象に引き付けて考えることのできる力」である。この歴史的思考力を育成するために，本研究では，現代における社会的事象を題材とし，過去の歴史的事象とのつながりを見いださせる。その際に，歴史的資料に基づいて，歴史的事象が現代の社会的事象へ至る流れを生徒に把握させる。そして個々の歴史的事象と因果関係等で結ばれていること，歴史が過去から現代へ向けて流れを形成していることを理解させるといった事象の構造化を図る取組を行う学習活動を行う。

【視点１】　生徒に資料を自ら読解させ，必要な情報を選択・把握させる工夫

【視点２】　把握した情報を構造化させ，設けられた小課題を考察しながら単元課題に迫らせる工夫

【視点３】　ステップチャート型のワークシートを利用させ，多面的・多角的な視点から単元課題を生徒が追究できるようにする工夫



単元課題への思考及び構造化に関する概念図

２　研究の内容と実際

(1)　授業実践について

①　【視点１】について

生徒が課題に取り組む際に，多様で客観的な情報にふれられるように，事前に教師側で参考文献に当たり，資料を準備する。ただし，生徒が読み込む情報が過剰になり，小課題に取り組む際に，混乱しないよう教師が必要な部分を抜粋し，読解のキーワードとなる部分は字体を変えるなどして生徒が注目するよう配慮する。

生徒が資料を読解し，自主的に情報を把握できるように，資料はあらかじめ冊子として配付する。小課題に取り組む際に使用する資料はその都度,生徒に選択させる。ただし，その小課題に対応しない資料を選択して課題への取組を進めてしまわないよう，教師から課題への取組前に，生徒が用いる資料を確認し，軌道修正しながら授業に当たる。

② 【視点２】について

ワークシートの小課題（便宜上ワークシート上で先に取り組むものを下位課題，後に取り組むものを上位課題とする）の配置については，生徒の思考が段階的に導かれるよう配慮する。下位課題は資料の情報を適切に把握すれば記述できるレベルの内容，上位課題は下位課題の記述を基に勘案（把握した内容を生徒の思考の中で，再構成する)，活用（把握した内容を利用し，新しい課題に取り組み新規の課題を思考する）しなければ記述できない内容とする（**図１**）。下位課題と上位課題は下位課題を原因・背景とし，上位課題がその結果となるような関係性をとり，生徒が事象間の因果関係に気付き，思考の構造化に寄与することをねらいとする。

	ワークシートの内容・下位課題及び上位課題
ワーク（１）	アメリカ軍がなぜ沖縄に基地を置くことにこだわるか地政学的に考察する。 （下位）沖縄戦はなぜ起きたか。 （上位）現在の沖縄にはなぜ米軍基地が集中しているのか。
ワーク（２）	沖縄戦の記録を基に沖縄の人々の軍隊観・戦争観を考察する。 （下位）沖縄戦で沖縄の人々はどんな体験をしたか。 （上位）沖縄戦の経験から沖縄の人々は戦争や軍隊に対してどのような印象をもったと思うか。
ワーク（３）	戦後沖縄での基地用地収用や米兵の犯罪を基に沖縄の人々の米軍観を考察する。 （上位）戦後の米軍と沖縄の関わりから沖縄の人々は米軍基地や軍人にどのような考えをもっていると思うか。 ※下位課題は生徒に教師が作成したものを与え，生徒は課題をそれに基づき記述した。
ワーク（４）	(単元課題)現在，沖縄で基地問題が起きているのはどうしてだと考えますか。ワークシート（１）～（３）の内容を必ず参考にして自分の意見をまとめて記述しなさい。
ワーク（５）	基地問題を踏まえた上で望ましい沖縄の在り方を各自想定する。 （課題）沖縄は今後どうしていくべきか。また基地問題はどのように取り扱っていくべきかあなたの考えを自由に記述しなさい。

図１　本研究のワークシートの内容及び課題

③ 【視点３】について

それぞれのワークシートは，単元課題に対して１枚につき一つの立場とその考えをまとめることができるように作成した。ステップチャートは，自分の考えを可視化し,順を追って出来事や思考を整理できるツールであり，【視点２】で述べた下位課題と上位課題が因果関係をもつこと，ワークシートごとにまとめた内容が単元課題と多角的または多面的な関連をもつことを明示するためにこの考え方を利用したワークシートを本研究では大いに利用した。本研究でのワークシートの小課題はステップチャートのように因果関係等を示すために矢印でつなげられており，単元課題のワークシートにもワーク（１）～（３）からの矢印が結ばれている。しかし，厳密にはこれはステップチャートではないため，本研究で使用したものをステップチャート型ワークシートと呼称する。

今回は３枚のワークシートを利用し，単元課題に対して米軍と沖縄の二つの立場から，地政学等の三つの理由によって社会的事象が生起していることを生徒に思考させ,その上で思考を総合させ，結論を導き出させている。

(2) 授業の実際

対象　高等学校第２学年２クラス（78 名）（６時間）
授業実践「テーマ学習【沖縄基地問題を考える】」

① 生徒に資料を読解させ，情報を把握させる指導

生徒には授業で使用する資料を冊子にして渡した。ワーク（１)の小課題に関しては用いるべき資料を示して，内容の把握に集中させた。その後，取り組ませたワーク（２)・(３）に関しては冊子中のどの資料を用いるか，生徒に総覧させ，選択させた。生徒が小課題に対応する資料を適切に選択しているか確認するために，生徒にどの資料を用いるか質問し,クラス全体で認識を共有した。

② 生徒に小課題に取り組ませ思考・表現させる指導

一定の時間を確保し，資料を把握させた後，ワークシートに設けられている小課題に取り組ませた。思考をまとまりのある形で表現させるため，一定の文章で小課題への考えを記述するように指導した。そして課題ごとに優れた考えを黒板に書かせ，発表させた。また、思考・表現がうまくできなかった生徒については，発表された考えを書き取らせ,自分の記述と照らし合わせることで,振り返りの機会を設け，自己評価を行わせた。

③　生徒の思考を総合して単元課題に迫らせる指導

生徒には授業１時間ごとに，１枚のワークシートに取り組ませた。ワーク（１）では米軍の立場から基地問題を考えさせ,（２）・（３）では，沖縄戦の経験や戦後の米軍基地の用地収用等の歴史的事象を手掛かりにして沖縄の人々の立場で基地問題を考えさせた。そしてワーク（１）から（３）を基にワーク（４）に取り組ませた。以上のようにワークシートごとに別の立場で考えさせることで多角的な視点に，同じ立場でも異なる背景・事情から単元課題に向き合わせることで多面的な視点に生徒が立ち,単元課題について思考・判断できるように構成した。

④　発展的に課題に対して自由に考えを表現させる指導

単元課題への取り組み，発表，振り返りを通して，生徒に発展的な課題として自由に思考を記述するワーク（５）に取り組ませた。取り組むに当たっては学習指導要領世界史Ａにおける近現代史の指導に当たっての配慮事項アにあるように,「客観的かつ公正な資料に基づいて歴史の事実に関する理解を得させるようにすること」を踏まえた。これまでの単元の学習を参考にしつつも自由に自分の考えを記述することを旨とした。そこで，冊子に基地存続賛成・反対両方の観点に立った資料を添付することで，資料の面でも公正さに配慮し，生徒が自由に思考できるようにした。またそれまでのワークシートを基に考えさせることで，単元の学習で思考・把握したことをどのように課題解決に利用できるかを生徒が判断できるようにした。

Ⅲ　研究のまとめ

１　研究の成果

⑴　ワークシートの記述内容の評価から

実践後にワークシートの記述内容を評価した結果、**図２**のような結果となった。グラフの達成度は生徒の記述した内容をＡ～Ｄの４段階の基準を設け，評価し，ＡまたはＢの評価基準に達していた生徒の割合である。ワーク（１）の下位・上位及びワーク（３）に見られるように70％前後の生徒が資料を読みこなし，それを基に自らの思考を表現することができた。同時に歴史的な事象を要因として現代的事象について考えることもできている。

またワーク（４）の結果のとおり，多面的・多角的に単元課題を考察できた生徒も 57.1%に達している。下記のデータは，生徒の一定数が歴史的事象を流れを追って把握し，それによって現代的な社会的事象とつなげ思考することができたという証左となろう。

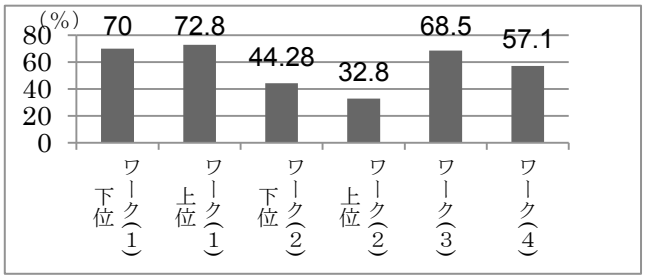


図２　生徒のワークシートの達成度

⑵　ワークシートの記述内容の変化から

生徒の歴史的思考力を研究の前後で比較するため,「現在，沖縄で基地問題が起きているのはどうしてだと考えますか？現在の段階の自分の意見をまとめて記述しなさい」なる課題を単元展開前に実施した。生徒の記述内容の比較（**図３・図４**）を見ると，明らかに思考の深化や歴史的因果関係に対して多角・多面的な思考等望ましい成長が見られる。

太平洋戦争でアメリカが沖縄に米軍基地をつくったことから始まりました。まず基地問題が起こるきっかけとなったのは太平洋戦争である。なぜ太平洋戦争がおこったのかというと最初日本がアメリカ海軍が多数駐留するハワイの真珠湾を攻撃して始まったのが始まりです。日本が経済や領土や豊かさを求めすぎたための戦争だと思う。
基地問題が起こるのは空に大きなせんとうきがとんでいる事やせんとうじっせんなど良くないことをしているからだと思う。沖縄県民が安心して住めていないのが一番の原因だろう。

課題の趣旨をとらえておらず個々の事象に関する感想的な内容にとどまっている。

図３　単元実施前の記述

アメリカ軍は，沖縄の基地を持ち続けたい。なぜなら，アジアの地域紛争にすぐさまアメリカ軍が行ける位置だし，中国の太平洋の覇権を強めているので，これをおさえるために，沖縄に基地を置き続けたい。
沖縄の人々は，戦争のせいで親や周りの人々が死んでるし，米軍兵の人々が女性や少女に暴行を加えたり，沖縄の住民や農地を力づくで排除し，家屋・耕作地をつぶして基地をつくっている。
アメリカ軍は残したい。沖縄は基地はいらないの2つが対立して基地問題になっている。

課題の趣旨を理解し，基地問題について単元で学習した米軍と沖縄の人々の対立という構図を理解し，問題の原因に迫っている。

図４　単元実施後の同じ生徒の記述

２　今後の課題

課題として，学びの振り返りがある。小課題ごとに優れた考えを示した生徒の発表を書き取らせることで生徒に一定の自己評価は行わせたが，自らの考えの改善点などを客観的に検討させることはできなかった。

また，目標に達することができた生徒が約６割弱であったことは，逆にいえば４割強の生徒は達することができなかった。今後は机間指導のより一層の充実や生徒自身の思考の振り返りにペアワークを導入するなどの改善を行い，より多くの生徒に歴史的思考力を育成したい。